

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200045		
法人名	社会福祉法人 笑壺の会		
事業所名	グループホームごはん家族八雲西町		
所在地	守口市八雲西町2丁目12-13		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日散歩に出掛け、社会とのつながりを大切にまた利用者の気分転換を図れるように努めている。日々穏やかに笑って暮らせるようケアに取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人「笑壺の会」の経営になる利用者6名のこじんまりしたホームである。管理者もよく動き、気配りも行き届いて、職員間のコミュニケーションもよくとれている。利用者すべてに職員の目がよく行き届き、ホーム名の家族のような雰囲気があり、食堂兼リビングルームでは利用者全員の笑い声や歌声が絶えず、にぎやかに且つ穏やかに暮らしている様子が伺える。職員の年齢構成も20代から60代まで各1~2人おり、バランスがとれていてその年齢から気づいた点を意見として提案したりしている。看護師が常勤し、開設以来5年弱で、すでに利用者の看取りを5例経験され、医療連携体制も素晴らしい。利用者定員が少ないことをメリットととらえ、質の高い介護を続けることを目指しておられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々穏やかに笑って暮らせるように支援します」と、独自の理念をつくりあげている。また、フロアに掲示し職員に意識付けしている。	「日々穏やかに笑って暮らせるように支援します」を当ホームの理念として制定され、それを実践されている。	平成18年の法改正により、理念にも地域密着性を感じる文言を入れ、地域住民との交流のもと運営することが求められており、今一度職員全員で工夫することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩に出掛けたり、近所の牛乳パック回収、スーパー、美容院を利用して日常的に交流している。	地域住民とはよく交流出来ている。自治会にも加入しイベントや祭りで参加出来るものは参加している。近くの保育園や小学校あるいは高校とも交流している。介護の仕事を目指す実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に地域の方と触れ合う機会を作り、認知症の人の理解を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。主治医との連携や家族様とのやり取りを報告して、意見をいただき、サービス向上に活かしている。	開催日は偶数月の最終木曜とほぼ決めていたが、次回の開催日については会終了時に確認している。行政からは地域包括支援センター、地域からは町会長や民生委員にも出席して頂き、有意義な会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議利用して、地域包括支援センターと協力関係を築くように取り組んでいる。市役所担当者とは、平成22年12月からグループホーム集会に参加していただき連携に努めている。	地域包括支援センターとはよく連携がとれている。そして市のケアマネージャー連絡会やグループホーム交流会には必ず市の担当課(高齢福祉課)にも出席してもらい、情報を交換したりしてサービスの質の向上に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を正しく理解までは、全てとは言えないも、日常的に身体拘束をしないケアの話は行っており、玄関も施錠していない。	「身体拘束廃止マニュアル」をスタッフ一同で共有し、身体拘束しないケアが実現出来ている。玄関も施錠せず、見守りケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフ間でストレス等話して、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等はあるも学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約後にも、疑問点がないか尋ね、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者に意見等を表せる機会は設けており、会議時には話し運営に反映させ、運営推進会議において表せる機会を設けている。	家族はよく来訪されるので、その際何でも言い易い雰囲気を作り、運営やサービスに関する意見を伺っている。利用者からは、日常寄り添って何気ない会話から汲み取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案用ノートを作り、その都度また会議時には意見等を聞く機会を設け、反映させている。	働く意欲の向上に繋がるので、何でも気づいたことが書き込める「提案用ノート」を作り、職員の意見を引き出す努力をしている。今回の自己評価作成についても、出来るだけ多くの職員の意見を反映するよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的にコミュニケーションを図り、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、その後会議後に内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のケアマネジャー連絡会に参加し交流する機会を持っている。また、平成22年12月よりグループホーム集会発足し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、本人自身からよく聴く機会を作り、本人が安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からよく聴く機会を作り、本人が安心を確保するための関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり傾聴し必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意としている事を教えていただいたりする機会を取り入れたりして、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時には、家族の支援をお願いし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出を積極的に援助したり、また馴染みの人が来所された時には、間に入り関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者の今までの生活を支援するため、最初のアセスメントシート作成時や入居後も馴染みの場所や知人・友人を聞き出し、家族の了解を得て行ったり、会ったりすることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、日常生活においても利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な家族には、お手紙等で近況を伺ったりして関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人の意向を聞くようにしている。また連絡ノートにて職員は情報交流している。	最初は利用予定者の自宅を訪問し、これまでの暮らし方や趣味等を把握し、これからの暮らし方の希望も聞き出し、アセスメントシートにまとめ、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人の希望を聞いたり、また家族に確認を行ったりして介護計画を作成している。	最初のアセスメントシートおよび家族やかかりつけ医の意見を参考にして、ケアカンファレンスを開いて本人本位のケアプランを立てている。モニタリングもほぼ毎月行い、ケアプランの変更性の有無をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記入する事で情報を共有し介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ、本人が一人で通院を行ったりして柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じて、各機関との連携を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の依頼をしたり、バス乗車までの援助をしたり、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者や家族の希望を聞き決めている。利用者本人の通院には家族の協力を得ながら支援している。協力医療機関の往診を受け、結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員や提携医院の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までもターミナルケアを行い、かかりつけ医の協力のもと支援に取り組んでいる。	重度化に伴う対応は利用者や家族と話し合い、方針を共有し協力医療機関や職員と連携しながら支援に取り組んでいる。身取り介護についての同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルは作成しているも、全ての職員ができるとも言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長、近隣の医院に日頃から声を掛け、協力を得られるよう働きかけている。	消防署職員の参加を得て訓練を行い、非常通報装置や火災報知機を取り付けている。水・クラッカーなど非常用食品の備蓄がある。自治会長や民生委員などに協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている。	尊厳やプライバシーの確保はマニュアルを作成し言葉かけなどに気を付けて対応している。自己評価シートを作成し振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に思いや希望を伺ったりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや、都合を優先せず対応しているも、利用者の希望に添えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、手伝っていたいている。	職員が利用者の好みなどを聞きながら、食材を購入して調理をしている。利用者も手伝い出来るものは手伝い、大きなテーブルを皆で囲み、お喋りをしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等を記録し、利用者の状態や力、習慣に応じた支援を行っている。また体重管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシに歯磨き粉を付けたり、入れ歯洗浄したり、口腔状態や力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを探り、誘導時間を考えたりして、気持ちよく排泄できるように支援している。	アセスメントシートや排泄チェック表などで、排泄パターンを把握し、さりげない誘導をし、トイレで排泄するよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に便秘気味の方には、水分摂取量に注意し、また身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフ配置もあるため、曜日や時間帯は決まっているが、決められた時間の中でタイミング、湯船の中の時間は希望を聞きながら支援している。	週3回を基本に入浴出来るよう、職員がタイミングなどを工夫しながら1対1のゆったりとした支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遅い入眠時間の方は、スタッフの横で手作業されたり、また添い寝したりして眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しており、服薬の支援と症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性同士で将棋をしていただいたり、また女性の方で歌が好きな方には常に歌集を用意して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診のため、交通機関を利用し一人で外出したり、利用者個々の持っている力に合わせて、戸外に出られるよう支援している。	毎日、商店街・公園・近くのお店などに散歩をし、ときには公民館の催しなどに出かけている。初詣・お花見、紅葉見物などには車で出かけたりにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解し所持し使えるよう支援している人もあるが、ホームでの生活に支障をきたす方には所持してもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり支援していたも、現在はされる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には家庭的な照明を使い生活感を採り入れ、また時季の花を生けたりして季節感を取り入れている。	玄関を入るとオープンな事務室があり、天窓から自然な採光の明るいリビングに和紙の照明、オープンキッチンからは調理の香りが漂い家庭を思わせる空間づくりをし、寛げるようテレビの前にソファを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファやダイニング席の配置を考え、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には可能な限り、今まで使い慣れたタンスやベット等を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室入口は似顔絵の表札がありそこには、その人の干支、以前の職業などのイラストがしてある。室内には家族の写真やお嫁入りの桐の筆筒などを持ち込み、その人らしい居室の工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゴミ箱の位置を少し変えたり、鍵施錠の所に貼り紙したりして、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		